

今年もインフルエンザについての話題がテレビ、雑誌等で大きく取り上げられ、世間を騒がす時期となりました。当院においても、インフルエンザの流行に備え、様々な対策を講じています。それらについてご紹介します。

## 新型インフルエンザについて

内科主任医長 石塚 隆雄

日に日に寒くなり、インフルエンザが流行する季節になってきました。インフルエンザの予防についてはワクチン接種がもっとも有効ですが、もしインフルエンザにかかったときの治療はどうでしょうか。



抗ウイルス薬（タミフルなど）は発熱してから48時間以内ならもっとも有効な治療です。平均すると一日早く治るとのデータが出ています。これだけではたいしたことはないと感じるかもしれませんが、抗ウイルス薬は死亡などの重篤な病態になる率を減らす効果も証明されています。

インフルエンザウイルスはただ単に発熱や関節痛をもたらすだけでなく、別の細菌感染を引き起こすために恐れられているのです。タミフルなどの抗ウイルス剤（ノイラミニダーゼ阻害剤）は日本において大量に使われているために、既にB型インフルエンザでは耐性ができて効きづらくなってきています。貴重な薬ですので幼児や高齢者・心疾患や肺疾患を患っている人に薬は優先されるべきという考え方もあります。

さて、最近新型インフルエンザの話題をよく耳にします。

ニュースなどで「インフルエンザ」と呼ばれているものには次のようなものがあります。

- 1) **普通のインフルエンザ**：人の間で流行するインフルエンザ。A型とB型があります。
- 2) **鳥インフルエンザ**：主に鳥の間で流行するインフルエンザ。人や他の動物がかかることもありますが、人から人へは感染しません。
- 3) **新型インフルエンザ**：鳥インフルエンザが少し進化して、人の間で流行するようになったインフルエンザ。何十年かおきに現れます。

今のところ新型インフルエンザは報告されていません。鳥と濃厚に接している東南アジアなどで鳥インフルエンザが人に感染しているだけです。しかし、いつ大きな流行がおこるかわからないので、世界保健機構などが厳重に警戒しているところです。



# 新型インフルエンザシミュレーションの実施について

内科医師 登内 一則

いよいよ世間でも新型インフルエンザの話を頻繁に耳にするようになりました。世界各地で鳥インフルエンザの感染拡大が止まらず、何時、何処で発生してもおかしくないそうです。なんと日本で発生したら死者200万人という試算もあります。怖い話ですね。万が一の場合に備え、当院でも平成20年12月4日に新型インフルエンザのシミュレーションが行われました。

当日は新型インフルエンザに感染した患者が来院したことを想定して、診察室での対応と、検査科、放射線科等の連携をシミュレーションすることとなりました。今回、私は診察室で患者に対応する医者役としてこのシミュレーションに参加することになりました。観客付きの診察とうことでかなり緊張しました。シミュレーションでは新型インフルエンザの疑いのある患者が車で搬送されるとの連絡から始まります。感染病棟到着後、まずは感染予防のため、防護服の着用となります。ケージーの上から感染防護服（よく映画とかに出てくる白いつなぎのアレです）を着こみます。髪まで覆う形のため服のサイズがあるか心配でしたが、何とか無事着ることができました。そのうえでマスク、ゴーグル、シューズカバーまで着用して完全防備となり、いよいよ患者を迎えに行きます。付き添いの看護師役の方も同じく完全防護で仕事に当たります。患者役の女性が到着し、そのまま診察室へ。この診察室、完全空調の上、ベッド周囲はビニールカバーで覆われ外気と触れないようになっています。患者役の女性にはその中に入っただけ診察、採血（実際はフリだけです）はそのビニールにあいた直径15cmほどの穴より両手を入れて行いました。かなりの念の入れようです。日頃やりなれた作業なのに、フリだけだとなんだか気恥ずかしいのはなぜでしょう？

検査が終われば続いてレントゲンの撮影です。これも感染病棟備え付けのレントゲンで撮影をし、一通りの診察が終わります。診察終了後は慎重に防護服を脱ぎますが、着たときの倍は神経を要します。診察室を出たところでシミュレーションは終了となりました。当日はその後にデブリーフィングを行い問題点の再検討となります。実際の場合では当然、患者は一人ではないでしょうし、予想外のトラブルも考えなければならず、課題は尽きることはありません。新型インフルエンザの発生・流行は世界同時に起こる自然災害と同じです。完全に予防しきれないわけではありません。できればこのシミュレーションが必要にならない方がよいのですが、医療従事者としては常に十分な備えをしておきたいですね。

